



庭の水撒きは数少ない趣味のひとつ。写真：佐伯泰英事務所

頭も固し、骨もまた

佐伯通信

2015年8月(平成27)
第28号
発行
佐伯泰英事務所
担当/文藝春秋
禁・無断転載

恒例により一年一度の人間ドックを受診した。その結果、まあ、年相応と自己診断した、一つだけ飛び抜けたAランクは骨密度だ。骨密度一・五八六g/cm³、若年成人比較一三三%、同年齢比較一五五%。八十%あれば正常と判断されるのにこの数字だ。頭も固いが

骨も固いらしい。戦中生まれで飢餓の時代に育ったのがよかったのかね。一泊二日、唯一のAクラス勲章を持って熱海に帰宅した。土曜日は、愛犬みかんの体を風呂で洗う日だ。自分の入浴が済んだあと、温泉の湯を汲もうと中腰で屈んだ途端、左足が湯に濡れた御影石の縁で滑った。手から洗面器が湯船に飛び、左腰を御影石に打ち付けた。いや、その前に手桶が飛んだようだ、眼の端で捉えていた。「骨を折った」と激痛の中で感じた。息も

骨も固いらしい。戦中生まれで飢餓の時代に育ったのがよかったのかね。一泊二日、唯一のAクラス勲章を持って熱海に帰宅した。土曜日は、愛犬みかんの体を風呂で洗う日だ。自分の入浴が済んだあと、温泉の湯を汲もうと中腰で屈んだ途端、左足が湯に濡れた御影石の縁で滑った。手から洗面器が湯船に飛び、左腰を御影石に打ち付けた。いや、その前に手桶が飛んだようだ、眼の端で捉えていた。「骨を折った」と激痛の中で感じた。息も

佐伯泰英 / 近刊のお知らせ

11月	10月	9月
28日発売予定	14日発売予定	8日発売予定
15日発売予定	8日発売予定	15日発売予定
《新潮文庫》 新・古着屋総兵衛 (題未定) 11	《ハルキ文庫》 鎌倉河岸捕物控 『店仕舞い』(仮) 27	《光文社文庫》 吉原裏同心 『狐舞』 23 《講談社文庫》 交代寄合伊那衆異聞 『飛躍』 23 <small>「佐伯通信」第29号が入ります。 (初版の初回出荷分のみ読み込み)</small>

新装改訂版『完本 密命』全26冊を続々再刊行!

9月2日 発売予定	(巻之六) 『兇刃 一期一殺』	10月9日 発売予定	(巻之七) 『初陣 霜夜炎返し』
--------------	---------------------------	---------------	----------------------------

東京近郊の「妙法」世界

文藝春秋文庫「新・酔いどれ小籾次」シリーズ担当 **田中貴久**



「新・酔いどれ小籾次」も三巻目。赤目小籾次、おりょう、駿太郎の仲にも変化が見られてきました。小籾次を父と慕う駿太郎が、その秘密を知らずにいたからこそ、いつ破れてもおかしくない関係であったものが、これからどう変わっていくのか。一冊一冊が縁あって生まれたこの家族の思い出を積み重ねていくようです。

さて本巻「桜吹雪」では、長屋の老人・新兵衛の力の抜けた妙な間合いのお題目から幕が開きます。奇しくも先日、東京大田区の日蓮入寂の地に建つ大本山・池上本門寺をお参りする機会がありました。鬱蒼とした緑にかこまれた丘の上に堂宇が建ち並び、ときどき太鼓の大きな音やお題目が周囲を驚かして、独特の雰囲気があります。東京にも、まだまだこういう処が残っているのだなあと思いつきながら、お寺のお休み処で蕎麦を頂きました。そうそう、本職のお題目はさすがに力が入っていましたよ。

(「新・酔いどれ小籾次」は、別宮ユリア・田中貴久で担当しています)

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト

2015年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと発行いたします。
(株)文藝春秋、(株)講談社、(株)角川春樹事務所、(株)双葉社、(株)光文社、(株)新潮社

出来なかつた。悲鳴を上げたはずなのに家人はだれも気付かない。バスタオルを巻いた格好で居間に行く、家族がようやく異変に気付いた。
私はまた救急車の世話になるのかと、そんな考えが頭に浮かんだ。
今年の一月、トイレで倒れ、救急車で運ばれた出来事があったからだ。
ともかく湿布薬を貼り、鎮痛剤を飲んで一晩経過を見ることができた。
その晩は眠れなかつた。こんな夜に限り、小笠原沖地震が日本列島を揺らし、

腰が曲がった状態でよろよろと避難するのとかそんなことまで案じた。
一晩、経過を見て骨折、縛などはないと判断した。おそろしく転倒したとき、プラスチックの手桶がクッション代わりになって打撲で済んだのだろう。鍼灸治療を連日受けることにした。骨密度Aクラスのお蔭で骨折もせず、驚異的な回復力で普通の暮らしに戻った。それにしても今年にはなにかと多事多難のようだ。

◆出版社からのお知らせ◆
「交代寄合伊那衆異聞」
完結せまる
シリーズの始まりを覚えておられますか？ 安政大地震の報せに伊那から江戸まで走り抜いた一人の若者が、この一大スベクタクルの扉を開きました。無敵の剣を振り回し、長崎でヒロイン玲奈と出会い、あれよあれよという間に、今では帆船三隻の船団長です。先の見えない混沌を、仲間と縦横に駆ける座光寺藤之助。東方交易を襲った悲劇とは？ 不敗の藤之助に最後の敵が？ 期待通り最後の最後まで目が離せません。最終巻『飛躍』、いよいよ9月刊行です。
(講談社文庫)